

平成19年3月 和歌山大学大学院経済学研究科修了。紀南サテライト大学院修了第1号で70歳でした。修士論文のテーマは「地域経済活性化研究」で、指導してくださったのは橋本卓爾教授と大泉英次教授でした。

小生は、西牟婁郡町村会事務局長を68歳で退任し、開設間もない和歌山大学紀南サテライトで、今一度じっくり学問に取り組むことにしました。学習の目標は、学問のための研究ではなく、社会に貢献できる生きた経済学を学ぶことにしました。

当地の山間部は、林業関係の不振に伴い、働く場を失った若い人々の流出が進み、僻地の集落は惨憺たる有様で、住民税で所得割を納められる方はほんの数%（殆どが公務員などの給与生活者）なのです。多くの住民は、農作物の自給自足で厳しい生活をしています。

そこで、高齢者でも取り組める仕事で、応分の収入が得られ、地域活性化を図れないか模索したのです。幸いなことに、当地には奈良・平安時代当時から熊野山岳信仰が盛んで、その参詣道が熊野古道であり、歴史的遺産として残されていたことです。平成16年7月7日に文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録され、多くの参詣者が訪れだしたが、来訪者に世界遺産登録の趣旨や歴史・自然環境など解説しながら案内できるガイド「語り部」が必要となってきたのです。県としても、語り部の養成が急務となってきました。そこで、現地の地理や植生などに詳しい地元民が、歴史・民俗・伝説など体系的に学習することで「語り部」として養成できるのではないかと目をつけたのです。

中辺路街道の地元では、歴史愛好者の会がすでに存在していたので、語り部組織「漂探古道」として立ち上げ、案内・解説業務に携わることになりました。この業務により、応分の報酬を得て、地域の所得を上げ、地域活性化に明かりが見えてきました

ただ、このような会は、どうしても創始者及び取り巻きによる恣意的な運営に陥りがちです。この会の事務局長を任された小生、この弊害を取り除き、明朗で継続性のある組織として育て上げることが大事で、大学院で学習してきたことをベースに、この組織を集団運営することに着眼しました。すなわち法人化し、理事による合議制を模索しました。結論として特定非営利活動法人（NPO）にすることでした。一部の関係者からは猛烈な反対がありましたが、説得の上、平成17年11月10日に法人登記を済ませました。設立に関した事務、すなわち知事の認可手続き、法人登記などすべて小生が行いました。実に複雑な作業が続きましたが、その結果、毎月定例の理事会を開催し、重要案件はすべて合議の上で決め、運営がスムーズに行えるようになりました。また、法人化し継続的に質の高い業務を行っていることで、観光業者や来訪者の信頼が増し、語り部報酬も安定的に得られています。得られる報酬は年間約2000万円前後で、その15%を、人件費や通信費などの事務局運営費に利用しています。また、外国人来訪者が増加している中、通訳案内業務を行う特定非営利活動法人Mi・K umano も立ち上げさせて頂きました。

今はどちらからも引退し、行く末を見守っていますが、NPO 漂探古道は健全に運営されており、NPO Mi・K umano は懸命の努力をしているところです。小生、この二つの組織を立ち上げ、地域活性化のため、ささやかながらも社会貢献ができたと自負しています。